

光市医師会報

平成11年 1 月号

No. 315



市内一周駅伝

光市医師会

年頭のごあいさつ

光医師会長 近藤龍一

あけましておめでとう御座居ます。皆様それぞれよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうかよろしくお願い致します。

さて、御承知の通り現在の日本は極度の不景気にあり、我々も大きな影響を受けています。政府の大きかりな景気対策によって、今年後半ごろには経済成長率も僅かながらプラスに転ずるのではないかと、との希望的観測もありますが、まだまだ判りません。ほんの1年位前には「日本の財政赤字は世界最悪」と政府が宣伝し、マスコミもこれにのって、いまにも日本が破滅するかのよういわれ、我々も又そう信じ込んでいました。国と地方の赤字は500兆円を越え、これをGDPと比較すれば約7%だから、日本より悪いのは7.1%のイタリアくらいのもので、アメリカ2.8%、ドイツ3.5%、フランス4.8%とすべて日本を下回っている。だから、国を救う為には今我慢しなければ大変なことになると吹き込まれ、消費税の値上げ、特別減税の撤廃、社保本人の一部負担の増加、薬剤1部負担の新設と約9兆円もの負担増大をのまされました。

しかし、統計というのはその内容をみないと分からないもので、この数字には日本とアメリカの場合、社会保障基金の数字が入っていませんでした。日本は社会保障基金の収支は年間13兆円以上ありますから、これを入れて比較し直すと、対GDP比は日本が3.3%となり、アメリカの2.0%よりは大きいですが、ほぼドイツなみというこ

とになります。さらに、社会保障基金の残高、政府の保有する外貨準備を含む預金、貸出金、出資金等を負担残高から引き、純赤字額をGDPと比較すると、日本は10%、フランスが35%、イギリス42%、ドイツ44%、アメリカ50%となり、日本が最も健全財政ということになります。つまり、日本の借金はたしかに多いが金融資産も多く、アメリカやヨーロッパは借金も多いし金融資産はあまりないということです。政府やマスコミのいう日本の危機的財政はほとんど虚像だったという信じられないお話なのです。その挙げ句、日本は未曾有の不況に突入し、単なる不景気ではなく、デフレスパイラルに伴う恐慌状態に入ったという説さえあります。

政府の失敗によるものであることは明らかで、内閣が変わったとたん、財政法は凍結され、大幅な減税、金融に対する60兆円もの資金投入等、前内閣が大宣伝して行った施策が、全てひっくり返されたことでも証明されます。政府の失敗によるものであるのに、医療に関するものは殆んど是正されないのは非常に不満です。今年7月から老人保険に限り薬剤1部負担は解除されますが、社保本人の2割自己負担、老人以外の人々の薬剤1部負担はそのままです。早急に撤廃して元に戻すことを声高に主張しなければなりません。

日本の財政と同様に「日本の医療費も老人の増加によって大変なことになる。2025年には老人医療も年金も破綻して、

老人は路頭に迷うことになる。」と厚生省は宣伝し、マスコミもこれにのって耳にタコができるくらい聞かされてきました。我々も、国民もそう信じ込み、厚生省が医療費に大ナタを振るうのを仕方ないことと半ばあきらめていました。

しかし、別の見方をしてみますと、これは余りに事態を悲劇的にみているということになります。働く人が支えているのは高齢者だけでなく子供もそうです。働いている人を分母にして、支えられている人を分子に取れば、分子の高齢者はたしかに増えていきますが、同じ分子の子供たちの数は少子時代の中で減ってゆくのです。分母の方は現在は60数%ですが将来55%くらいまで減少します。

分子は、高齢者の増加だけをみれば負担が急増するようにみえますが、子供たちへの負担も減っていくので、いわれているほどに高負担にはならないのです。現在が6人で4人を支えるとすれば、将来は5.5人で4.5人を支えることになり、それほど危機的な状態を迎えることにはなりません。むしろ、余ったお金を足らないところへスムーズに移転出来ない硬直的な財政運営の方にこそ危機があると申せましょう。

以前にも申しましたが、日本の医療費はGDPと比較して世界の16番目にすぎません。

少ない費用で高度の医療を行う日本は世界から驚きの目でみられています。しかし、そこで働く医療スタッフの過酷な現状、入院した患者さんの悲惨な境遇もまた別の意味で世界の驚異なのです。現在の不況下

でも財政はかなり健全で、将来の老人人口の急増も余り大した危機にならない以上、我々はこうした不合理、不条理を是正する為に正々堂々と主張していかなければならないと思います。

さて、今年は卯年ですが、現在ウサギは世界中に58種生息しています。正式には、脊椎動物門・哺乳類ウサギ目・ウサギ科・アナウサギ属ということになります。わが国に生息するウサギ類は、エゾナキウサギ（北海道大雪山系）、アマミノクロウサギ（奄美大島・徳之島）、エゾユキウサギ（北海道）、ノウサギ（本州・四国・九州）の4種で、いずれも野兎です。現在我々が目にする家畜化されたウサギはヨーロッパの地中海沿岸を原生とするアナウサギで、天文年間（1532～1555）にオランダ人によってもたらされました。尾形光琳の兎図には黒・白・黒白斑・まだらなどが描かれているので、1600年代の後半には色変りのウサギがすでに入っていたのは間違いありません。

ウサギの名の由来ですが、色々な説があり、(1)ウサギ本来の名はウで、梵語でウサギを意味する舎舎迦（ささか）が加えられ、後にウサギになった。(2)朝鮮語の烏鞆合（おさがむ）が変化した。(3)ウサギの尾がブツツン切れているように見えるのでヲサギ（尾先切）とよんだ。(4)月の中にいるからで、ウは中（ウチ）、サキは上（さぎ）からきている、等がありよく判りません。

ウサギは人々に人気のある割には諺は余り多くありません。

- (1) 兎を得て畏を忘れる。
(喉元過ぎれば熱さ忘れると同意)
- (2) 兎死すれば狐これを悲しむ。
(悪賢いキツネでさえもウサギの死を悲しむ。まして人間は不人情であってはいけない)
- (3) 兎の毛でついたほど。
(きわめて小さいこと)
- (4) 兎の登り坂。
(ウサギは前脚が短く坂を登るのが上手なことから、人が地の利を得て持てる力を発揮すること)
- (5) 兎の畏に狐がかかる。
(偶然の幸運をたたえること)
- (6) 兎も7日なぶれば噛みつく。
(おとなしい人でもあまり意地悪をされればだまっていないこと)
- (7) 株を守って兎を待つ。
(古臭いやり方を守って融通のきかないこと)
- (8) 脱兎の如し。
(逃げ足の早いこと)
- (9) 2兎を追うものは1兎を得ず。
(いっぺんに2つのことをしようにすると、どちらも中途半端になってしまうこと)
- 今年も皆様にとって良い年でありますようにお祈りいたします。

〈会員広場〉

私 の 手
富 恵 哲

診療の合い間に繁々と自分の手を見てみる。左手、五本の指すべてが右に比べておかしい。手背、基節にはまあまあ皺がよっ



ているものの、中節、末節は平滑で皺が殆んどない。何れの指も、所々、表皮が剥離して居り、痂皮を作っている。特に中指がひどく、中節は癩痕化して、潰痕が出来ている。潰痕が特に、痂皮で被れたり、出血したりして居る。爪は拇指を除いて、すべて褐色となり不揃いの黒褐色の線が入り、表面はでこぼこしている。どの指も関節が太く腫れている。何時ぞや、レントゲンを撮って骨をみると、変形が著明で肉体労働者の指である。その昔、スマートな細い指であった事が夢の様である。

外科医に成りたての頃、細い指をかざし

て百万ドルの指だからと怪我を懼れて指を使う仕事に気を配った事を懐かしく思い出す。

此処一年余り、指の変化が益々ひどくなる。痒くなり、掻くと痂皮が落ちて出血するので気になり触らざるを得ない。友人のレントゲン専門医の岡本君は、両手共、拇指を除いてすべての指を切断している。彼は、学校を出てレントゲン教室に勤務して居たので止むを得なかったのであろう。聞く所によると、秋吉台の石灰岩と骨の関係が彼のアルバイトで、泣きわめく子供を押さえて骨のレントゲンを撮ったとか。随分レントゲン線を浴びたのであろう？。それに比べて私の浴びた量は大した事はないと多寡を喰っていたのだが、どうもそうでない様である。

思い出すと、レントゲンを軽く見過ぎたのかも知れない。学生時代、昭和24～25年頃、山陰の小さな病院へ出入りして結核の患者を診せて貰った。肺虚脱療法の盛んな頃で、気胸、胸廓成形が花形で、休暇を利用しては病院へ出掛けて、気胸の空気を入れた。気胸器の針を刺して、ポコポコ空気を送り込んだ後、虚脱状態を見る為、透視を頻回に繰り返したり、成形手術後を見るのに透視を行ったり、今考えるとひどい事を行ったと思う。プロテクターを掛け、手袋をしてレントゲン室に入るものの、透視中に感触がわからず、遂、右側の手袋はずして素手で触る始末である。

その後、東京日赤で、先輩の肺動脈撮影のアルバイトを手伝って、造影剤注入。機械の無い当時の事、手渡しでカセットを入れ連続撮影を試みた。如何に短い時間に連

続に撮れるかと、先輩達と苦勞した事を思い出す。四十数年前の出来事である。

当時、レントゲンを浴びても障害を深刻に考えなかった。レントゲンを専門にやっている連中は防禦を十分に考えたであろうが、片手間にやっている吾々は、そんなに考えなかった様に思う。

手に癩痕、揮裂が出来だしたのは、此処数年、レントゲンを浴び出して四十数年経ってからである。

軟膏を塗ったり、コロヂウムを付けたりしているが、段々、進行している。

最近はなるべく透視を避けているものの、開業医なので、骨折の転位が来ると止む得ず透視下で整復して居る。息子が「親爺、大丈夫か」と心配して居るが、使えるレントゲンを新しいのに買い換える余裕もなく、訪れた患者を他処に転医させるのも可哀想なので、悪いと思いつつも透視を続けている。

もう七十才。今からまだ、古いレントゲンを使用しても、指を切断するまで生きれまい。息子の代になったら、新しい装置を使って透視するであろう事を願って、古い機械を使用している昨今である。



〈医療情報〉

再び予防接種について

光市立病院 小児科部長 横山 宏

皮下接種の正しい部位について

○昨年の光市医師会報（平成10年7月号）に正しい予防接種部位について投稿しました。しかしながら昨年の暮れに周南小児科医会主催で予防接種の講演会がありそれに出席しましたが、その講演のなかで予防接種の正しい部位は、【上腕伸側の上1/3または下1/3が適切である】とお話がありました。私は、はなから下1/3だけが正しいと思っていましたから、これは嘘を書いてしまったかなと思い医師会報を見直しました。幸いなことに、文章では下1/3と書いていたのですが、図bでは上1/3のところにも印があり、ちゃんと見てくれた人にはわかってもらったかなとやや安心しました。橈骨神経は上腕伸側の中1/3において背側から腹側に斜めに下降しているのです。この部位での接種は橈骨神経の損傷を起こす危険があるため、この部位をさげ上腕伸側上1/3と下1/3が正しい部位なのです。念のため再報告をします。

BCGの接種部位と接種手技

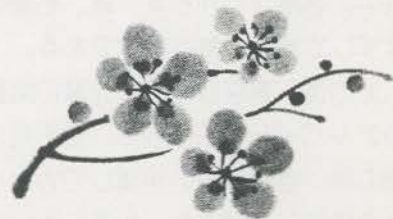
○BCGの正しい接種部位についてかねがねどこが正しい部位なのか調べることもなく、漠然と接種をしてきました。幸い正しい接種部位について知ることができましたのでお知らせします。接種部位の正しい位置は【上腕外側のほぼ中央部】だそうです。皮下接種の禁忌の部位がBCG接種の正しい位置になります。肩峯に近いところの接

種は、皮膚の緊張が高いためまた衣服との摩擦が多いためケロイド形成をおこしやすいので避けるべきです。また肘関節付近への接種は、皮下組織が薄く尺骨神経が上腕骨に沿って走っているため危険です。

○BCG接種は潰瘍形成等の強い副作用を避けるために管針法になりましたが、管針の弱い圧迫により効果が不十分になることがあります。これを避けるためには【管針筒を上腕骨に向かって十分強く皮膚面を圧迫する】ことです。十分強く皮膚面を圧迫とは、数点の針痕からわずかに出血する程度をいいます。このためには管針筒を指でつまんで押し当てるような圧迫では不十分であり、管針筒の頭を手掌で押しつけることが大切です。

○以上ご存知の方も多いと思いますが、日頃自分がどうかなと疑問に思っていた事を知ることができ嬉しくなり報告をしました。

参考文献：予防接種 下村国寿 小児科臨床：Vol 51 1441-1446 1998



平成10年光市医師会忘年会

日時 12月17日(木) 6時30分～

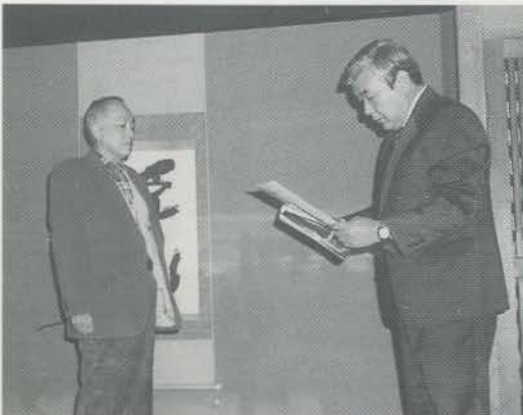
場所 金久



古稀祝 富恵 哲先生



古稀祝 丸岩 巖先生



古稀祝 田村勝司先生

心電図研究会 (第126回)

日時 平成10年12月11日(金)

午後7:30分～

場所 光商工会館

- 症例
- ①86才 女 心タンポナーデ
 - ②81才 女 右室梗塞?
 - ③13才 男 心室細動
 - ④62才 男 肥大型心筋症

光医歯会忘年ゴルフ

〔結果〕

日時 平成10年12月13日(日)

場所 周南C. C

| 順位 | 氏名 | out | in | total | HD | Net | ハンデ |
|-----|-------|-----|----|-------|----|-----|-----|
| 優勝 | 富恵 哲 | 56 | 53 | 109 | 30 | 79 | 24 |
| 準優勝 | 諏訪 高志 | 46 | 50 | 96 | 15 | 81 | 13 |
| 3位 | 南 典文 | 53 | 51 | 104 | 23 | 81 | |
| 4位 | 藤村 朴 | 44 | 48 | 92 | 10 | 82 | |
| 5位 | 兼清 照久 | 46 | 47 | 93 | 11 | 82 | |
| 6位 | 前田 昇一 | 50 | 47 | 97 | 14 | 83 | |
| 7位 | 光武 達夫 | 46 | 48 | 94 | 11 | 83 | |
| 8位 | 河村 康明 | 52 | 62 | 114 | 28 | 86 | |
| 9位 | 森本 博士 | 49 | 43 | 92 | 6 | 86 | |
| 10位 | 佃 幹夫 | 59 | 59 | 118 | 25 | 93 | |
| 11位 | 冬野幾々男 | 54 | 58 | 112 | 17 | 95 | |

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

今月は市内一周駅伝の取材をしました。昔は出場選手さえ集めるのがむづかしい状態だったのに、今では駅伝ブームでチーム数が多いのに驚きました。箱根駅伝を彷彿とさせる様なシーンもあります。くりあげスタート・無念の白ダスキ・タスキを渡す走者がでてきてない等、仲々面白いリレー風景でした。出発する前の選手は中継地点にたどりつけば良いという様な事を言っていますが、皆さん、仲々のラストスパートを見せてくれました。光医師会もチームを作ってとは申しませんが、運動の大切さは皆さんよく御存知の事と思います。

| | |
|-----|---------------------------|
| 発行所 | 光市医師会 TEL 0833-72-2234 |
| 発行者 | 近藤 龍一 |
| 編集者 | 広報担当 |
| 印刷所 | 光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社 |